

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(団体用)

I 基本事項

整理番号 514

事業名	公衆衛生協会負担金		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	市民生活部	生活環境課		款	衛生費・4款
電話	0799 - 43 - 5024		項	保健衛生費・1項	
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)	目	環境美化対策費・6目	
	<input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務				
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	職 食 づくり 夢あふれ 働く場を生み出すまちづくり			
	まちづくりの目標	ふやさんか 食づくりの担い手【農漁業】			
	施策目標	安全でおいしい地元の食材を、市民や来訪者が地元で消費できる仕組みをつくる			

II Plan&Do (計画・事業内容、団体内容、投入資源)

事務概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人を、構成員内訳)			
		南あわじ市公衆衛生協会	構成人数(人) 1,614		
	実施内容	活動目的(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入)			
		食品衛生指導員による巡回指導の実施及び食中毒防止啓蒙運動の実施の為、負担金を交			
		(主な事業、活動内容等)			
	団体の概要	(どのような団体か、活動目的、活動内容など)			
		平成19年度の役員名簿を見ると29名で、業種としては、旅館営業・理容業・菓子製造業・美容業・飲食店営業・めん類製造業・魚介類販売業・クリーニング業、緑支部70名、西淡支部323名、三原支部423名、南淡支部603名、その他15名、理容美容クリーニング180名で総計1,614名			
補助金算出根拠	事務局の所在 (直接事務執行部署)	<input checked="" type="checkbox"/> 補助団体	<input type="checkbox"/> 市役所	<input type="checkbox"/> 市単位 ()	
				<input type="checkbox"/> 旧町単位 () <input type="checkbox"/> 旧村単位 ()	
補助交付期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度	<input checked="" type="checkbox"/> 設定なし			
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯)				
	<input type="checkbox"/> 旧緑町 <input type="checkbox"/> 旧西淡町 <input type="checkbox"/> 旧三原町 <input type="checkbox"/> 旧南淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から 三原郡町村会が事務をしていた。				

		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
資源配分 インプット	直接事務費 (千円)	300	300	300	300
	公衆衛生協会負担金	300	300	300	300
	財源 (千円)				
	国				
	県				
	起債				
	その他				
	一般財源[A]	300	300	300	300
	人件費(正規職員)[B] (千円)	0	0	0	0
	平均人件費(1日当り)	30.7	29.9	30.1	30.1
	事業量1(事業に要した日数)				
	事業量2(事業に要した人数)				
	年間経費([A]+[B])	300	300	300	300
	「構成人数」一人当り経費 (千円)	0.2	0.2	0.2	0.2
	受益者人数(1,614)一人当り経費(千円)	0.2	0.2	0.2	0.2
経費に関する 補足説明	平成17年度は健康課担当で、平成18年度から生活環境課担当に。				

Ⅲ Check (事業の自己評価・一次評価)

費用対効果	(費用対効果の分析、問題点・課題などを記入。) 「食」がはぐくむ ふれあい共生の都市のまちづくりの柱、職(食)づくり、まちづくりの目標の3本柱の観光・交流、漁業・商工業の方が構成員です。	自己評価 (5点評価)
		3
必要性	公共性の高低 <input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低 (公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 安全でおいしい地元の食材を、市民や来訪者が地元で消費できる仕組みをつくる。	自己評価 (5点評価)
		3
総合評価	自己評価をふまえた現状分析 5万人みんなが案内人になって全国にPRする受付の市民代表なので非常に大切な役割をしていただき、南あわじ市の食の安全安心を担っていただいていると日々感謝しています。	<div style="text-align: center;"> <p>評価グラフ</p> <p>費用対効果 必要性</p> </div>

IV Action&Plan (改善・改革の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減
	<p>食中毒防止啓蒙運動などの公衆衛生活動については公益性があり、今後とも、協会の活動のうち市が負担すべき経費について支援は必要である。</p>	<p>同左</p>
(現状維持以外の改善方法)		
改善によって期待される効果		
(現状維持の場合も記入)	<p>仮に補助金、交付金を廃止した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面)</p> <p>食中毒防止啓蒙運動などの公衆衛生活動について市が負担すべき経費が必要です。廃止した場合は南あわじ市と公衆衛生協会との信頼関係がくずれ、観光・飲食等すべての業種との協力が得られない。</p>	